

## この本の特徴

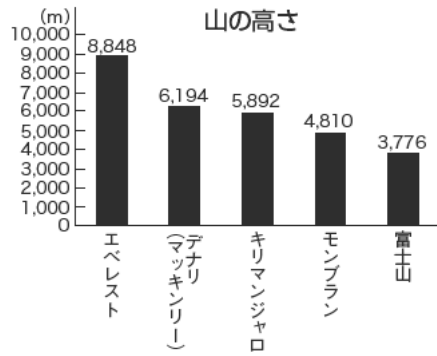
この本は、小学6年生冬休み前までの学習内容を中心につくられたテキストです。基本的な力をつける問題を中心につくってありますので、今まで学んだことの基礎を身につけるためにぴったりです。一課に一枚の別冊確認テストがついています。各課の理解度チェックに役立ててください。最後には、総合確認テストで実力をチェックしましょう。

## この本の使い方

- 例題……その課の基本的な問題を取りあげています。アドバイスをよく読んで、この課で学習すべき内容を身につけましょう。
- 練習問題……例題で学習した内容をもう一度確かめるための練習問題です。ややむずかしい問題もとりあげています。
- 総合問題……この本の総まとめの問題です。
- 言葉と漢字のトレーニング……全6回分の言葉についての問題と漢字の読み書きが出題されています。漢字は、6年生で習った漢字の読みと5年生までに習った漢字の書きが中心となっています。読解問題1回分とセットで学習しましょう。

1	物語(1)	2
2	物語(2)	6
3	説明文	10
4	随筆文	14
5	情報	18
6	短歌・俳句・古典	22
	総合問題(1)・(2)	26
	*言葉と漢字のトレーニング	32

1 次の資料を見て、あとの問いに答えましょう。



「世界の統計2020」(総務省統計局)より作成

□(1) グラフから読み取りましょう。

① 最も高い山の名前を答えましょう。

② 最も低い山の名前を答えましょう。

□(2) この資料からわかることとして最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えましょう。

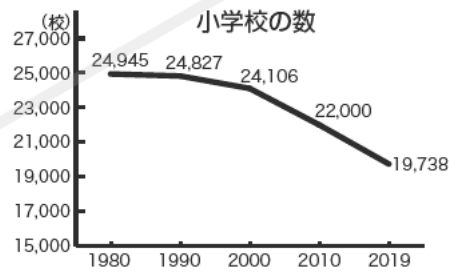
- ア エベレストは富士山の三倍の高さであること。
- イ 山ができた時期が古いほど、その高さが高くなること。
- ウ 日本の山の中では、富士山がいちばん高いこと。
- エ 世界の山と比べると、富士山はそれほど高くはないこと。

## アドバイス

●最も大きな数値(最も小さな数値)に注目する

グラフや表の中で最も大きな数値(最も小さな数値)を見ることで、そのグラフや表の中で「何が」重要な項目であるのかを確認することができます。

2 次の資料を見て、あとの問いに答えましょう。



「学校基本調査」(文部科学省)より作成

□(1) グラフから読み取り、漢数字で答えましょう。

① いちばん最近の年の小学校の数

② ①のおよそ三十年前の小学校の数

□(2) この資料からわかることとして最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えましょう。

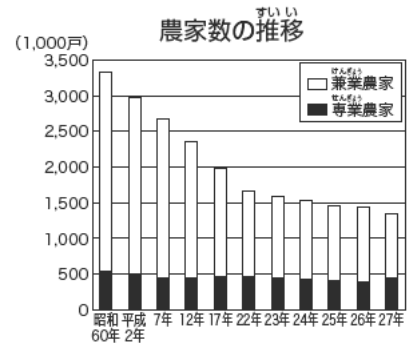
- ア 小学校の数は、年によって増えたり減ったりしている。
- イ 小学校の数は、年とともに増えている。
- ウ 小学校の数は、年とともに減っている。
- エ 小学校の数は、毎年ほとんど変わらない。

## アドバイス

●数値の差に注目する

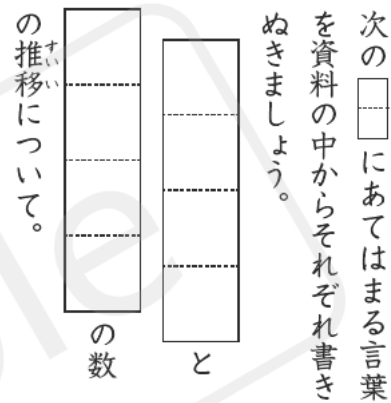
折れ線グラフなど、数値の変化を表す場合には、数値の差に注目します。折れ線グラフでは、差が大きければ大きいほどグラフは急な傾きになります。

3 次の資料を見て、あとの問いに答えましょう。



「第66回 日本統計年鑑平成29年」(総務省)より

□(1) 何についての資料ですか。

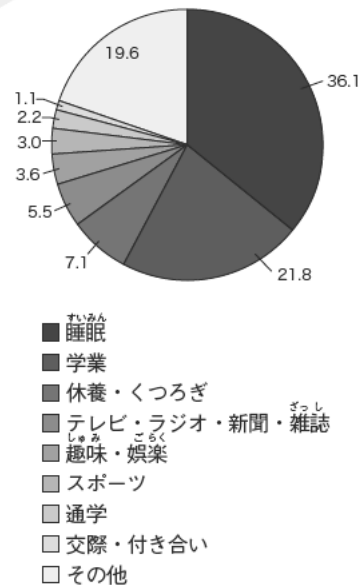


□(2) 資料からわかることをまとめた次の各文の「」にあてはまる言葉を書きましょう。

- ・ 農家全体の数は、
- ・ 兼業農家の数は、大きく
- ・ 専業農家の数は、減ったり増えたりしているが、変化はあまり

4 次の資料を見て、資料から(1)読み取れることを一つ選んで書きましょう。また、(2)それに関して気づいたことや感想を一文で書きましょ。

小学6年生の一週間の生活時間の内訳(平成28年)(%)



「平成28年度社会生活基本調査」(総務省)より

□(1) 読み取れること

□(2) 気づいたことや感想

アドバイス

●資料からわかることを書く

資料から読み取った事実を正確に書きます。ここでいう事実とは、図やグラフの表示や数値のことです。資料の内容から想像したことは事実ではなく、意見や考えに当たります。

アドバイス

●意見文を書く

自分の考えがしっかりと伝わるように、事実と意見を書き分けます。接続語や表現にも注意して書きましょう。

- ・ 主題(テーマ)についての自分の主張・根拠。
- ・ 主張を裏づける事実や、自分の体験。
- ・ 事実や体験にもとづいた自分の意見・感想。

# 練習問題

1 次の資料を見て、あとの問いに答えましょう。

産業別就業者数(平成27年)

(東京都及び大阪府)(単位:1,000人)

産業分類	東京		大阪	
	就業者数	割合(%)	就業者数	割合(%)
総数	5,859	100.0	3,778	100.0
卸売業・小売業	818	14.0	613	16.2
製造業	590	10.1	593	15.7
医療・福祉	541	9.2	458	12.1
情報通信業	445	7.6	106	2.8
宿泊、飲食サービス業	332	5.7	213	5.6
学術研究、専門・技術サービス業	327	5.6	122	3.2
建設業	307	5.2	245	6.5
教育、学習支援業	267	4.6	164	4.4
運輸業、郵便業	258	4.4	224	5.9
金融業、保険業	219	3.7	92	2.4
不動産業、物品賃貸業	211	3.6	103	2.7
生活関連サービス業、娯楽業	198	3.4	126	3.3
その他	1,673	22.9	719	19.2

「平成27年国勢調査結果」(総務省)より作成

□(1) この表にある卸売業・小売業、製造業……などの項目の上位語を、表の中から書きぬきましょう。

□(2) この表からわかることにはまらないものを次の中から一つ選び、記号で答えましょう。

ア 東京と大阪では、就業者が多い産業の順位は変わらない。

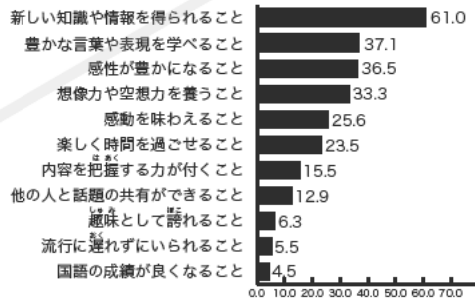
イ 卸売業・小売業では、就業者数は東京のほうが多いが、割合で見ると大阪のほうが多い。

ウ 東京と大阪を比べたとき、特に東京に多いのは情報通信業や学術研究、専門・技術サービス業であり、大阪に多いのは製造業や医療・福祉である。

エ 総数は東京が五八五九、大阪が三七七八とあるが、実際の人数は五八五九〇〇〇人、三七七八〇〇〇人である。

2 次の資料を見て、あとの問いに答えましょう。

読書をする事の良いところ(三つまで回答)(%)



平成30年度「国語に関する世論調査」(文化庁)より

□(2) 右のグラフで、回答が多いものにはどのような共通点がありますか。考えて書きましょう。

□(3) 右のグラフで、回答が少ないものにはどのような共通点がありますか。考えて書きましょう。

□(1) グラフの数値はそれぞれ何を示していますか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えましょう。

ア その項目を良いと回答した人の人数。

イ 回答全体のうちの、その項目の割合。

ウ 全員のうち、その項目を良いと回答した人の割合。

